

ティーチング・ステートメント

所属 未来デザイン学部 人間社会学科

名前 牧野 高壮

作成日 2024年2月26日

【責任】

人間社会学科の心理学専攻に所属しています。心理学領域のなかで臨床心理学を専門としており、教育および臨床実践研究活動を行います。臨床心理学に関わる講義科目および、学外実習科目運営、ゼミ活動運営、講義外による臨床心理学的地域実践に関する学生課外活動の提供、卒業論文指導が教育活動の中心です。

並行して、これらすべての教育活動の下地となる、臨床心理士としての心理臨床実践を教員は担います。加えて、対人援助を担う卒業生の卒後教育を手掛けます。

加えて心理学専攻における授業を含めた教育活動の運営管理を、心理学専攻主任の立場で行います。

【理念】

「心理臨床の知を得る」ことが理念です。人とのかかわりをすべてのまなびの中心におき、「床に臨む」ことが、いったいどんな性質をもち、どんな態度や認識を持つことなのか、まなびます。

この経過のなかで、学生自身が自らのこころを使って内省しながら、相手（事象や他者）をとらえるための態度を創ります。

【方針・方法】

概要：人とのかかわりが全ての学びの根幹ですから、実際に教員とかかわることが一番の教材となります。そこで起きる気持ち、態度、自身の振る舞いが格好のテーマとなります。これらが豊かに拡がりを見せることで、彼らの日常に影響を与えます。すると各々の学生に気づきが生じ、新たな体験へ連なります。具体的な結果として講義等への関与の程度が反映しますが、友人との関係や家族に対する認識変化も含めます。

これらの循環を促すことが、本教育方針の方法論です。

方針1 ➡ 教員との関係性を使用できるようにする（少人数の対応にて可能）

方法1：出席は個別に手を挙げてもらい教員との視線が合う形式をとる

方法2：プリントを学生に回させず教員が手渡しする形式をとる

方法3：大学によるアンケートや組織意向に対してむやみに応じを促すことを控える

方法4：学生と考えを交わすこと自体を目的とした、共創空間および時間を確保する

方法5：集団システムによる価値基準と各学生の学びは、異なる事象であることを自覚する

方針2 ➡ 教員の与えるテーマではなく自らのテーマを掘り出せるようながす

方法1：個別の学生に対する能力特性および性格特性の把握

方法2：既存評価に学生をつよく適合させることをやめる

方法3：一定の解答を学生につよく求めることをやめる

方法4：教員の意向に強く同調を示す応答に対するポジティブなフィードバックを控える

方法5：教員が伝えられる専門範囲を明示する（全体への働きかけ）

方法6：評価基準はミニマムにしつつ何を狙いとするか明確に伝える（全体への働きかけ）

方針3 ➡ 知的学びではなく身体化された学びをうながす

方法1：遊びと学びをわけない機会を提供する

- 方法2：講義時間中ではない相手との関わりの中に学びを混ぜる
- 方法3：知的理解に偏りすぎる応答へのポジティブなフィードバックを控える
- 方法4：大学での学業成績を二次的なものとして捉えられるようなフィードバックを行う
- 方法5：学外施設で不適応児童生徒達との関わりを体験することで、臨床実践の醍醐味を実感してもらう。
- 方法6：学生の体験内容を把握するため、体験を捉えるのに妥当な手法を用いる

方針4 ➡ 自らの態度を相対的に確かめられることをうながす

- 方法1：学生間における対話に共通点を見出すことだけでなく異なる部分が豊かに含まれていることに着目してフィードバックを行う
- 方法2：学生間活動について全体目標と直結させず、それぞれの活動がそれぞれの課題に用いることができるゼミ運営を行う
- ・方法3：他大学の心理学系教員や心理学専攻の学生たちと協働する関わりをもってもらうことで、専門教育に乏しい現状であることを自覚してもらい、学びにおける自らの布置を理解してもらう

方針5 ➡ 発想が主体的なものとして実感できることをうながす

- 方法1：学生の発言によって講義内容や進展が変化するように進行する
- 方法2：シラバスを完全に遵守することをやめる
- 方法3：学生の意見や思考によって教員の考えが変化する際は否認せず確実に応じる
- 方法4：評価基準は目標達成だけでなく質的变化を組み入れる。

【成果・評価】

- ・不十分な専門教育環境のなかで院進学および心理専門職をする学生が卒業時に各学年以前は10%いた。
- ・1期の卒業生は大学院進学後、国立大病院精神科臨床心理職として就職した。
- ・2期の学生は臨床心理士資格を取得するに至り、心理専門職を担っている。
- ・本学の制限された就職情報のなか、一定数の卒業生が対人支援職を選択し就職している。
- ・ゼミ学生が担当教員の指示をほどほどに利かず、統制が弱い特徴をもつ。
- ・アンケートなどへの回答率が高すぎない特徴をもつ。
- ・専攻による非常勤教員を大学教員主体ではなく臨床家により構成し、一律の領域に限らないように構成した。
- ・卒業論文テーマは、自身の歴史性と将来性に結びついたものを選択する。いわゆる研究のためではなく自身の発想に基いたテーマとなっている。
- ・他大学の臨床心理学教員や他組織の臨床心理士と、講義時間以外で臨床実践につながる課外活動を設け、インフォーマルな教育を提供していたが、この5年にて縮小した。
- ・学生のレポート報告による内容が教育指針を反映している。
- ・学生への教務業務上の制限がなされたことで、心理系の進学者が全くなくなった。

【目標】

- ・臨床心理士や対人援助を目指す学生の継続育成。
- ・卒業生に特別講義として臨床活動に関わる講義を担ってもらうことが可能になったことから、この形態を充実させる。
- ・職種が他領域にまたがる形での卒業生増加（司法領域および教育領域へ）。
- ・高い臨床能力をもつ心理臨床援助者の卒業生増加および職能としての連携による教育の充実。
- ・他大学との協働がこの5年間で少なくなった現状を元に戻し充実を図る。

- ・近年で臨床心理学の学びを望む学生に断念してもらった失敗を反省し、将来を目指す学生を回復する。